

能登半島地震・被災者支援プログラムの報告（第 24 回）

作成：TVAC/CS-Tokyo

■日程：2024 年 10 月 24 日（木）～10 月 26 日（土）

■ボランティア参加者数：10 名

■サロンの実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加人数
10 月 24 日（木）	穴水町甲地区兜公民館	17 名
	穴水町諸橋地区諸橋仮設団地	15 名
	穴水町中居地区住吉公民館	14 名
	輪島市町野地区金蔵集会所	13 名
10 月 25 日（金）	輪島市門前地区門前東小避難所	25 名
	輪島市門前地区皆月集会所	15 名
	穴水町志ケ浦地区志ケ浦コミュニティセンター	21 名

■被災者の声（主なもの）

- ・寂しい、近くの老人ホームに入りたい
- ・浦上に姉がいて、すごいひどかったと聞いているから、気になるし、何かしてあげたい。
- ・こたつを置けるスペースがない。仮設住宅は狭いなあ。
- ・1 月 1 日がトラウマ。今まで 50 年釣りをしてきて、今までで魚が一番大量に釣れた日に地震がきた。また釣れると地震がくるんじゃないかと、怖くて釣りに行けない。
- ・家にいてもねえ…愚痴ばかりしか言わないし、家にいても楽しいことがない
- ・来月またサロンをやってくれるなら頑張って生きていこうと思う
- ・膝が悪いから、こたつに入りたくても入れない。座ったまま入れるのもあるけれど、家を建て直したりするのにお金がいるからあまりお金は使いたくない
- ・水害で被害に遭った人と話すのが気まずい。向こうも気を遣うから。
- ・猫は避難している人が連れていけないから、野良が増えてる。空き家が猫屋敷になってる。
- ・移住してくれるひとがいないと集落がなくなってしまう

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・今後、サロンに来ている方々に声をかけ、一緒にサロンを進めることができるように促していく必要がある。
- ・ホットケーキ以外でも、ワークショップなどを実施するのもいいのではないかな。
- ・希望は捨てたくない。これからも関わって行きたい。細く長く、支援を続けていけたら。
- ・来場してすぐに「お手伝いできることはある？」と聞いてくださって、ホットケーキ焼きを手伝ってくださって、とても楽しく協働作業できた。

